



— 自立とは —

2年生は来週から5日間のトライやる・ウィーク（6/3～6/7）で山陽中学校を離れて活動します。

27年前の平成10年にスタートしたトライやる・ウィークは、兵庫県教育委員会が「生きる力」と「心の教育」を重視した取組の一環で、中学生を対象とした長期体験学習です。

生徒の皆さんには、このトライやる・ウィークを通して、大人がそれぞれの役割を果たしながら働くときに、他者と協力し「自立」的に仕事に取り組んでいる点を見習って、個々の活動に励んでほしいです。

「自立」とは、自分のことは、他人の力を借りずに、自分でやるという「独立」を意味する解釈で使われていることが多いように感じます。他人に依存しないで独り立ちする「独立」という言葉からは、「自立」よりも非依存度が高い印象を受けます。では「自立」と「依存」の関係はどのような受け取り方をすればよいのでしょうか。

臨床心理学者の故河合 隼雄（かわい はやお）先生は、著書「こころの処方箋」の中で「自立と言っても、それは依存のないことを意味しない。そもそも人間は誰かに依存せずに生きてゆくことなどできないのだ。自立ということは、依存を排除することではなく、必要な依存を受け入れ、自分がどれほど依存しているかを自覚し、感謝していることではなかろうか。依存を排して自立を急ぐ人は、自立ではなく孤立になってしまう」と述べています。

また、兵庫県教育委員会は「兵庫が育む こころ豊かで自立する人づくり」を教育の基本理念として掲げています。兵庫県教育委員会が意図する「自立」とは、「自分のことはできる限り自分ですが、自分ひとりでできないときや助けが必要になったときには、相談する相手がいて、助けてもらいながら責任を果たしていく」という河合先生の述べる「必要な依存を受け入れる態度」を含んだものを指しています。

生徒の皆さんは、このトライやる・ウィークで、分からないことがあれば質問したり、助けを求めたりしながら、自己の役割や責任を果たしてください。自分ひとりの力でやり遂げられればよいですが、できないこともあります。他者の力を借りながらも、このトライやる・ウィークでの自分の責任を果たすことが自立的に働くことです。他者に依存することも含めた自立心をこの機会に育ててほしい、と願っています。

人はそれぞれに何かの仕事をしながら生活をしています。物を生産してもらったり、サービスを提供してもらったりして、自分の生活が成り立っています。やがて生徒の皆さんは、そのような相互依存のなかで何かの役割を受け持って仕事をすることになります。自分の意思で自分のやりたいこと（仕事、勉学、趣味、運動、芸術活動など）を決定し、周囲の人の助けを借りながら、自己実現していくことが最終的な「自立」の目的ではないでしょうか。そして、「なぜ勉強するのか、どうして仕事をしなければならないのか」といった永遠のテーマに対するひとつの答えでもあります。

最後になりましたが、地域や事業所の皆さまにおかれましては、成長過程の多感な中学生を指導していただけることに、心より感謝いたします。至らぬ点や失敗することもあるかと存じますが、是非この機会に、やがては本校区を支えていく生徒のことを知っていただき、人生の先輩として助言していただければと存じます。また、保護者の皆さまにおかれましては、お子様との会話を通して、その日頑張ったことを褒めていただければ幸いです。宜しく申し上げます。

それでは、2年生にとって、実りある5日間になることを期待しています。トライやる・ウィークを終えて元気に中学校に戻ってきてください。